

岩手県の死亡野鳥における高病原性鳥インフルエンザウイルス検査陽性について（野鳥国内 36, 37, 38 例目）

令和4年2月25日（金）

<岩手県同時発表>

岩手県久慈市で令和4年2月17日（木）に回収されたオオハクチョウ1羽、ハシブトガラス1羽の死亡個体について遺伝子検査を実施したところ、2月24日（木）に2羽から高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）が検出された旨の報告がありました。また、同市において2月12日（土）に家きん16例目に係る農林水産省の疫学調査で回収されたマガンの死亡個体について遺伝子検査を実施したところ、2月22日（火）に高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）が検出された旨の報告がありました。

1. 経緯

- 2月12日（土） ・ 岩手県久慈市内で行われた家きん16例目に係る農林水産省の疫学調査で、死亡していたマガン1羽を回収
- 2月17日（木） ・ 岩手県久慈市内で死亡していたハシブトガラス1羽及びオオハクチョウ1羽を回収
 - ・ 簡易検査を実施したところ、2羽からA型鳥インフルエンザウイルスの陽性反応を確認
- 2月22日（火） ・ マガンについて、鳥取大学において遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）が検出
- 2月24日（木） ・ ハシブトガラス及びオオハクチョウについて、鳥取大学において遺伝子検査を実施した結果、2羽から高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）が検出

2. 今後の対応

- ・ 岩手県では、野鳥監視重点区域内における野鳥でのウイルスの感染範囲の状況把握、感染源の推定や更なる感染拡大を防止するための基礎情報を得ることを目的とした緊急調査（鳥類調査、死亡野鳥調査等）を実施しており、引き続き、野鳥の監視を継続します。
- ・ 野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルは、国内複数箇所で大病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、令和3年11月11日付けで「対応レベル3」に引き上げており、引き続き、野鳥における監視を強化します。

3. 留意事項

- (1) 鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃密な接触等があった場合を除いて、人には感染しないと考えられています。日常生活においては、鳥の排泄物等に触れた後には手洗いとうがいをいただければ、過度に心配する必要はありませんので、周辺地域のみならず国民の皆様におかれては、冷静な行動をお願いします。

(2) 同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡している場合には、お近くの都道府県や市町村役場に御連絡ください。

(参考) 野鳥との接し方について

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/2017yachotonosessikata.pdf

【取材について】

現場周辺での取材は、ウイルスの拡散や感染を防ぐ観点から、厳に慎むようお願いいたします。

【参考情報】

環境省ホームページで高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。

(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/index.html)

「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」

(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/pref_0809.html)

環境省自然環境局野生生物課			
鳥獣保護管理室			
代	表	03-3581-3351	
直	通	03-5521-8285	
室	長	東岡 礼治	(内線 6470)
係	長	福田 真	(内線 6670)
担	当	安藤 滉一	(内線 6478)